



こんなにも多くの労力をかけないと 処理できないもの、それが核廃棄物

旧東ドイツに、低中レベル用核廃棄物最終処分場モアスレーベンがある。岩塩の元採掘坑を利用したもので、インフォセン

ターでは処分場について展示をしている他、希望者は地中にもぐることができる。実際に核廃棄物が収納されている現場にはいけないが、採掘坑の様子や作業場を見学した。



コンクリートで穴を塞いだ現場

岩塩層は北ドイツによく見られ、2億5000万年前にできたとされる。ドイツでは核廃棄物は地中深く岩塩層に埋めるのが最適とされ、ここザクセンアンハルト州のモアスレーベンのほか、西ドイツのニーダーザクセン州にも低中レベル用核廃棄物最終処分場が2ヶ所ある。高レベル核廃棄物もニーダーザクセン州に候補地があったが、選定プロセスが不透明と批判を浴び、白紙に戻った。

モアスレーベンは19世紀終わりからカリ塩や岩塩を採掘し、1969年に終了した。空洞を利用して1934年から戦争用の武器を製造し、1944年からはナチス政権が3000～5000人の強制労働者を従事させた。戦後は旧東ドイツ政府の鶏肉700倍増計画により大規模養鶏をしたり、有毒廃棄物の暫定保管所となり、並行して1971年より核廃棄が運び込まれた。

このような状況に、地域住民から特に批判の声は上がらなかったという。もともと旧東ドイツでは、政府の決定に異議を唱えることは一般的ではなかった。今も地元での反対運動はほとんどなく、モアスレーベンインフォセンターの職員は「住民にとってここは、安定した職場だったし、今もそうだから」と話す。

採掘跡は地下500メートルまで断続的に広がっており、核廃棄物は最深のところを中心に収められている。将来の閉鎖工事に備え、実験的に長さ25メートルの採掘穴に500立米の塩セメントを充填する実験も行われた。250のセンサーを埋め込んだモニタリングしているほか、隙間がまったくできないように細いチューブを壁際に何本も通して補足的にセメントを注入するなど試行錯誤した。いずれ核廃棄物が収められている穴や、坑道の一部もセメントで固められ、二度と取り出せないようにする計画である。

しかし、実際の作業着手にはまだ時間がかかりそうだ。申請書を提出したものの、連邦最終処分委員会は2013年、計画の見直しを言い渡した。市民参加も推奨されていることから、新たな計画書作成に10年以上はかかりそうで、その後数年審査があり、やっと作業スタートとなる。現場では将来の工事に向け、現状維持とともにさまざまな技術を試している。

これでドイツにある低中レベル用核廃棄物最終処分場…コンラード、アッセ、モアスレーベンの3ヶ所すべてを見学したことになる。多大な労力と時間コストをかけなければ安全に処分できないのが核のごみだと改めて実感した。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

ドイツで子育て



前回、小学校を卒業のため次の学校を探していると書きましたが、進学希望者が多いときはくじびきでした。成績で選ぶわけではありません。学校紹介の催しに何校か行きましたが、化学実験や楽器演奏など、盛りだくさんのプログラムで大賑わいでした。一クラス約30人に男女二人の先生がつくのが一般的で、未来の担任たちの自己紹介もあり、親しみがわきました。

学校の成績は、テストだけでなく、発言や発表など積極性が評価されます。明は物語を書くのが好きで、調べ物をして発表するときの原稿も長い。先日は骨について宿題が出ましたが、明は体中の骨について3ページつらつらと書き、先生から「内容はよいけど、もっと簡潔に。字はきれいに」とコメントされました。日本語教室では教科書にある「たから島」をテーマにドラえもんの話を書き、ひらがなばかりだったので、漢字を入れて清書するのに3時間かかりました（気が散っているからですが…）。